

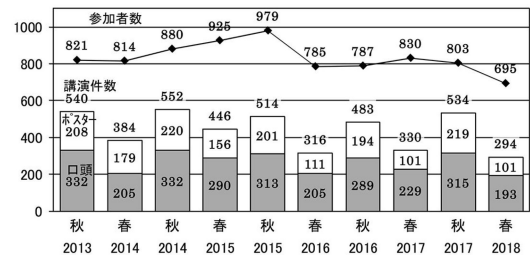
2018年度春季大会の報告

2018年度春季大会は、つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園2-20-3）を会場として2018年5月16日（水）～19日（土）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は695名であった（第1図）。

2日目午後には、大ホールにおいて総会が開かれ、重 尚一氏に日本気象学会賞が、内野 修氏と佐藤 薫氏に藤原賞が、太田琢磨・牧原康隆両氏に岸保・立平賞がそれぞれ授与され、総会に続いて受賞者による記念講演が行われた。3日目午後には、同会場においてシンポジウム「防災・減災のための観測・短時間予測技術の未来」が開催され、5件の基調講演と参加者による討論が行われた。4日目には、気象学に興味を持つ高校生・中学生を対象としたジュニアセッションが開催された。ジュニアセッションは今大会で4度目の開催であり、計16件のポスター発表それぞれで熱心な議論が繰り広げられた。

大会期間中は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいてコンペーターが編成する1件の専門分科会が行われた。一般講演の発表件数は280件（内訳はポスターが101件、口頭発表が179件）、専門分科会は14件で計294件であった。

会期中およびその前日には、教育と普及委員会による公開気象講演会「台風の強度～台風災害の軽減に向けた航空機観測～」を含め、個別のテーマによる6件の講演会や研究連絡会も開かれた。



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（口頭、ポスター）。

なお、今大会では、無料試行版という位置づけで、製本版の予稿集の定期購読者に限り、電子版予稿集のダウンロード配布を行った。

会員の皆様には大会全般に関するアンケート調査にご協力頂きました。誠にありがとうございました。

今大会の開催に当り、23の企業・団体・自治体からご出展・リクルートブース開設・ご協賛・ご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

また、気象研究所の皆様には大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂くとともに、ボランティアとして大会運営にご協力頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2018年6月 講演企画委員会